

平成28年6月 東京地区百貨店売上高概況

平成28年7月20日

I. 概況

1. 売上高総額	1,301億円余
2. 前年同月比	-3.2% (4か月連続マイナス)
3. 店頭・非店頭の増減	店頭-3.7%(89.1%) : 非店頭1.0%(10.9%) ()内は店頭・非店頭の構成比
4. 調査対象百貨店	13社 25店 (平成28年5月対比±0店)
5. 総店舗面積	882,870㎡ (前年同月比: 3.1%)
6. 総従業員数	19,229人 (前年同月比: -1.7%)
7. 3か月移動平均値	11-1月 1.0%、12-2月 1.7%、1-3月 0.5%、 2-4月 -0.1%、3-5月 -2.3%、4-6月 -3.1%

[参考] 平成27年6月の売上高増減率は5.9%

【特徴】

- (1) 6月の入店客数は0.1%増と堅調に推移したものの、来店顧客のニーズをつかみきれず、総額では3.2%減で4か月連続のマイナスに終わった。
- (2) 商品別では主要5品目のうち食料品(+0.2%)が2か月ぶりにプラスに転じたほか、衣料品、身のまわり品が前月よりマイナス幅を縮小して改善の兆しが見られた一方、雑貨が2015年3月(消費増税駆込の反動減)以来15か月ぶりに前年を下回った。
- (3) 細分類では、美白やUV関連商品が活発に動いた化粧品が国内・インバウンド共に好調で10.5%増の15か月連続プラス。また、子供服(+1.2%)、菓子(+1.9%)、惣菜(+0.7%)、その他食料品(+0.3%)にも動きが見られたものの、不安定な経済状況や、金融資産の減少から富裕層の消費マインドが低下したことで、美術・宝飾・貴金属が2桁減(-11.0%)。なお、個別商材では前月に続きサングラスや帽子、晴雨兼用傘に動きが見られたほか、婦人ブラウスが好調。
- (4) 歳時記では、中元については各社ともWEB受注の比率を高める中(シェア約10%)で、ほぼ前年並みに推移している。また、父の日関連ではポロシャツやハンカチ、メンズ化粧品に人気が集まったが、購入単価の減少によりマイナスに終わっている。
- (5) 7月は14日現在約6%のプラスで推移しており、クリアランスも各社とも好調に滑り出しているとの報告を受けている。

【要因】

- (1) 営業日数増減 30.0日 (前年同月比±0日)
- (2) 入店客数増減 (回答店舗数で見る傾向値/前年同月比/有効回答数19店舗)
①増加した: 4店、②変化なし: 5店、③減少した: 10店
- (3) 6月歳時記(中元、父の日)の売上(同上/有効回答数10店舗)
①増加した: 2店、②変化なし: 4店、③減少した: 4店

東京地区百貨店 売上高速報 2016年06月

	売上高(千円)	構成比(%)	対前年増減(-)率 (%)
総 額	130,170,443	100.0	-3.2
紳士服・洋品	9,772,100	7.5	-4.5
婦人服・洋品	21,042,373	16.2	-4.3
子供服・洋品	1,756,878	1.3	1.2
その他衣料品	2,513,504	1.9	-3.7
衣 料 品	35,084,855	27.0	-4.0
身のまわり品	17,757,151	13.6	-5.7
化粧品	10,383,077	8.0	10.5
美術・宝飾・貴金属	8,911,290	6.8	-11.0
その他雑貨	5,592,506	4.3	-2.9
雑 貨	24,886,873	19.1	-1.1
家具	1,521,797	1.2	-1.8
家電	694,993	0.5	-25.3
その他家庭用品	4,251,611	3.3	-17.5
家 庭 用 品	6,468,401	5.0	-15.2
生鮮食品	5,975,341	4.6	-3.2
菓子	9,668,331	7.4	1.9
惣菜	7,111,286	5.5	0.7
その他食料品	14,687,943	11.3	0.3
食 料 品	37,442,901	28.8	0.2
食 堂 喫 茶	3,039,107	2.3	-4.4
サ ー ビ ス	1,915,566	1.5	-18.5
そ の 他	3,575,589	2.7	4.1

注) 構成比は計算処理上必ずしも100%にはなりません。

本統計には消費税は含まれておりません。

対前年増減(-)率 (%)

商品券	4,490,855 千円	-5.0
従業員数	19,229 人	-1.7
店舗面積	882,870 m ²	3.1

営業日数	30.0 日	前年	30.0 日
------	--------	----	--------

Ⅱ. 商品別の動き

主要5品目は、食料品が2か月ぶりのプラスとなった。また、衣料品が8か月連続、身のまわり品が5か月連続、家庭用品が3か月連続、雑貨が15か月ぶりのマイナスとなった。その他の品目は、化粧品が15か月連続、惣菜が5か月連続、子供服・洋品、菓子、その他食料品が2か月ぶりのプラスとなった。

【商品別売上前年比の寄与度とトレンド】

商品別	売上前年比	寄与度	トレンド
総額	-3.2	-	4か月連続マイナス
紳士服・洋品	-4.5	-0.3	4か月連続マイナス
婦人服・洋品	-4.3	-0.7	8か月連続マイナス
子供服・洋品	1.2	0.0	2か月ぶりプラス
その他衣料品	-3.7	-0.1	2か月連続マイナス
衣料品	-4.0	-1.1	8か月連続マイナス
身のまわり品	-5.7	-0.8	5か月連続マイナス
化粧品	10.5	0.7	15か月連続プラス*
美術・宝飾・貴金属	-11.0	-0.8	4か月連続マイナス*
その他雑貨	-2.9	-0.1	11か月連続マイナス*
雑貨	-1.1	-0.2	15か月ぶりマイナス
家具	-1.8	0.0	3か月連続マイナス
家電	-25.3	-0.2	3か月連続マイナス
その他家庭用品	-17.5	-0.7	2か月連続マイナス
家庭用品	-15.2	-0.9	3か月連続マイナス
生鮮食品	-3.2	-0.1	4か月連続マイナス*
菓子	1.9	0.1	2か月ぶりプラス*
惣菜	0.7	0.0	5か月連続プラス*
その他食料品	0.3	0.0	2か月ぶりプラス*
食料品	0.2	0.1	2か月ぶりプラス
食堂喫茶	-4.4	-0.1	6か月連続マイナス
サービス	-18.5	-0.3	12か月連続マイナス
その他	4.1	0.1	11か月連続プラス
商品券	-5.0	-0.2	16か月連続マイナス

(注) 化粧品、美術・宝飾・貴金属、その他雑貨、生鮮食品、菓子、惣菜、その他食料品については2006年1月から細分化した。

お問い合わせは、日本百貨店協会 森・関 まで
 TEL 03-3272-1666 ホームページアドレス <http://www.depart.or.jp>